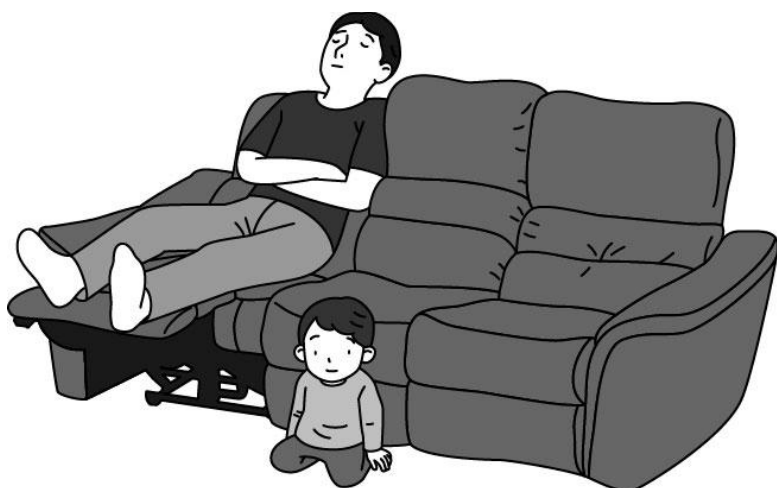


Injury Alert (傷害速報)類似事例

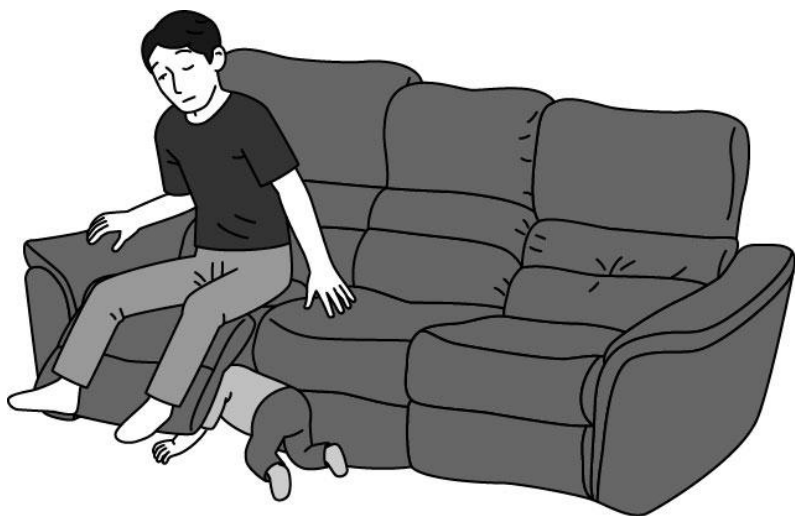
電動ソファのフットレスト下の金具に挟まれて発生した頭部外傷 (No.135 収納付きソファの蓋で頸部が挟まったことによる窒息疑いの類似事例 1) ㊦

事例	基本情報	年齢：5 歳 2 か月 性別：男児 体重：17.7kg 身長：108.3cm
	家族構成	父、母、姉（12 歳）、兄（9 歳）、本児
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		頭部挫創
医 療 費		外来 68,850 円 入院なし
原因対象	対象名称	3 人掛け電動リクライニングソファ 奥行 91-154cm 高さ 90-74cm 座高 39cm 重量 85kg
	入手経路 使用状況	約 10 年前に購入、自宅リビングで使用 普段からソファの下へ潜り込むような行動は本児やきょうだいには無く、今までソファに関連した傷害も起きていなかった。また、電動ソファには挟み込みを感知して自動で停止するような緊急停止機構は備わっていなかった。
発生状況	発生場所	自宅リビング
	周囲の人 周囲の環境	父と本児がリビングで過ごしていた。母と兄、姉は寝室で就寝中であった。
	発生年月日	2025 年 5 月 X 日（日） 午前 0 時 0 分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	夕食後、本児はリビングで過ごしていた。ソファには座らず、絨毯の上に座ってソファを背もたれにしながらテレビを見ていた。父親はソファをリクライニングの状態にして横になり、そのまま眠ってしまっていた（図 1）。しばらくしてから父親が目を覚まし、ベッドに移動しようと思い、リクライニングから元の状態に戻すため、本児がソファの下で眠っていることは気づかず、スイッチを操作しフットレストが上がっている位置から下げた（図 2）。そのとき、フットレストが収納される部分の金具（図 3）に本児の頭部（頭部の向き、上半身が挟まれていたかは不明）が挟まり受傷した。父の推測では、本児は、座っていた状態からそのまま横になり、リクライニングソファのフットレストの下に頭を入れた状態で眠ってしまっていたと考えられるとのことであった。受傷直後に医療機関を walk-in で受診した。

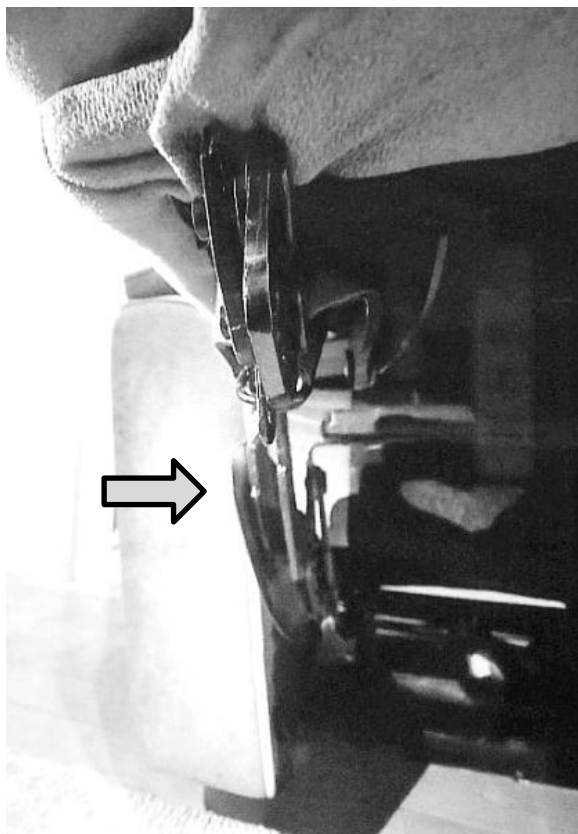
<p>医療機関受診時 以降の治療経過 転帰</p>	<p>来院時、本児の意識は清明で、その他のバイタルサインに異常を認めなかったが、左頭頂部に 30mm 程度の挫創（図 4）が認められた。創部はポケットを形成し、一部フラップ様となっていたため、創部の確認が必要と判断し、脳外科医師に診察を依頼した。局所麻酔下に創部を観察すると、フラップ状の創部の一部から動脈性の活動性出血が認められたため、電気メスで血管処置をし、止血を確認した後にステープラで縫合した。また受診当初、患者の受傷機転は不明であったため、医師は頭部 CT を撮像した。CT 画像の結果、頭蓋骨骨折および頭蓋内出血を認めなかった。ソファの構造については、保護者が持参した写真(図 3)によって判明した。同日午前中に創部確認を行い、以降は自宅での処置を継続した。X+6 日に全抜鉤を行い終診とした。経過中に創部感染等の合併症はなかった。</p>
<p>キーワード</p>	<p>電動ソファ、ソファ、頭部挫創、挟まれ</p>



【図 1】 挟まれる前の様子。父はリクライニングしてソファに座り、本児は絨毯に座っていた。



【図 2】 挟まれたときの様子。本児が下にいると気付かずにフットレストを下げてしまった。



【図 3】フットレスト下の構造。矢印（右）は頭部が挟まれた金具。



【図 4】左頭頂部の 30mm 程度の挫創。創部はポケットを形成し、一部フラップ様となっていた。